

令和3年. 4. 30



# のびるほとっ子!

もっと ほっと ずっと

横浜市立保土ヶ谷小学校

## 「来たるべきICTの時代に」

学校長 小川 克之

風薫る5月。道端のツツジやサツキの花の色がとても鮮やかに感じられるようになりました。5月の前半は大型連休でお休みの日が続きますが、後半には「全校なかよしスポーツ祭」を予定しております。

さて、1年前を振り返ってみますと昨年の4、5月は休校でしたので、子どもたちの姿は学校にありませんでした。私たち教職員は学校の主役である子どもたちがいないことに寂しさを感じました。時には、脇役であったり、演出家であったりする私たち教職員にとって、主役がいなければ何もできません。6月に学校が再開し、子どもたちの元気な姿や笑顔を見たときは、本当に心の底からうれしく感じました。

およそ1年が経ち、今年度は4月から学校がスタートしました。相変わらずコロナの影響もあるため、校内では手洗いの励行やソーシャルディスタンスの確保等が続けております。また私たち教職員の研修や会合等もオンラインで行うことが増えました。

保護者の皆様のご存じの通り、今年度から国や市の「GIGAスクール構想」に伴い、ICTの環境整備を急ピッチで進めているところです。1人1台端末、1人1アカウントによるクラウド利用、デジタル教科書の利用等、数年前では考えられないほどICT環境が変わりつつあります。日頃、パソコンやスマートフォン、携帯電話、電子ゲーム、電子辞書等が身近にある子どもたちにとって、学校でデジタル機器を使いこなすことは、さほど時間がかからないかもしれません。むしろ大人より、早く習得するのではないかと思います。

私自身オンラインで行う会合のよさや便利さは十分感じているものの、やはり対面で行う会合の良さも忘れてはいけないと思います。隣の人と無駄話をしたり、わからないことを小声で聞いたりすることはオンライン上ではなかなかできませんし、その場の雰囲気を感じたり、参加している人の反応をうかがったりすることも対面ならではの大切な要素だと思います。

また、一冊の本を最後までじっくりと読んだり、時間がかかってもわからない言葉を分厚い辞書で調べたりといった経験はいつの時代でも必要なことではないでしょうか。パソコンやスマートフォンを使って、検索サイトで言葉や事象を調べることは時間もかからず便利ではありますが、本当にそれで正しいのだろうか、正確な情報なのだろうか、調べた後に疑問をもったり、新たに調べようとするにつながつたりすることこそ、学習を深める第一歩だと思います。

アナログの良さも認めつつ、来たるべきICTの時代にデジタル機器を使いこなしながら、子どもが自ら学ぶ姿勢を育てる。その手助けをするのが教師の役割だと思っています。